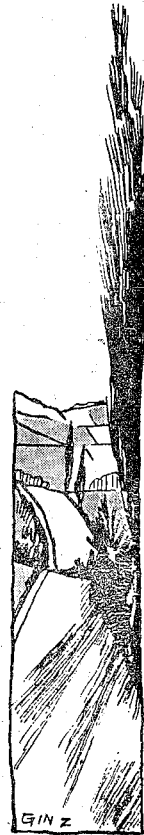


論説

道路—技術と政治



奥井復太郎

近來の政治動向に於いて、其の價値を最も根本的に疑はれたものは民主主義であらう。吾々は到る處に獨裁統制の聲を聞く。成程、民主主義の眞髓、乃至は獨裁制の至善、是等は本質的に反撥し合ふものでないかも知れぬ。即ち民主主義が衆愚政治でない限り、又獨裁政治が仁賢の政治である限りは。しかし今日の政治情勢と其の通念に従ふ限り、此の兩者に反撥抗争してゐるものと見るのが至當である。蓋し、いづれの主義にしる制度にせよ、其の有する最理想の極致を以つて實現せらるゝものでないから、結局吾々が問題にするのは、凡べてのイズムの最極致の相貌について、はなく、其の幾

段か手前の未だ至らざる階程に於けるそれ等の意義を問題にするのである。民主と云ひ、自由と云ひ獨裁と云ひ、いづれも此の次善の意義に就いての價値を評價して問題にするのである。

扱何故こんな事を問題にして來たかと言へば、吾々が取扱ふ當面の事情が之れに頗る關係が深いからである。當面の問題とは何かと云へば、或ひは都市計畫、或ひは計畫經濟、或ひは社會計畫等々、更に具體的には道路計畫及び其の行政等々と云ふ事が出来る。

是等の問題は元來誰が取扱ふか、是等の計畫の立案者となり、計畫者となり更に又執行者となる者は所謂民衆ではない、素人ではない。即ち専門家であり、所謂技師である。是等の問題に素人が、民衆が一知半解の知識を以つて容喙するは最も危険であり、最も非効果的である。此處に於いては専門家が所謂エキスパートが支配しなければならぬ！！

そこで、専門家と素人、此の對立が発生して來る。前者は、後者を輕蔑する、後者は前者を排斥する。一方ではその無知を憐み、他方ではその尊大を憎む。此の反撥は専門家と大衆との知識的間隔の懸絶が縮小するによつて益々大となる、或ひは社會の一般的教養乃至は知識の向上と共に増加する傾向がある。民をして知らしめざる態の往昔は、知者の言、其のまゝに行はれたであらう。又彼等はこれを行はしむる權力を持つてゐた。現代に於いては大衆は懷疑的である。一應は疑惑の眼を以つて眺める。例を以つて云へば、都市計畫史について見るといふ。中世都市教會建築又は獨逸王侯都市の整然たる設計、王宮を中心としての其の整備、或ひはナポレオン以來の巴里都市計畫等々を、是等

の設計家は、自からは絶大の権力者ではなかつたであらう。しかし彼等の背後には、自由に其の手腕を振はしめた絶大の権力者がゐたのではないか。換言すれば、是等技術家は自己の仕事の領域に於いては其の絶大な権力をそのまま行ふを得た。民衆も亦、従順であつた。反之、現代を見よ。一建築、一殿堂、一邸宅に豪華を誇る事は出来る。何となれば巨大の富を持つた一個人は、其の範圍で充分な權力を振ふ事が出来るから。しかし総合的都市計畫の如きになると、茲に莊大な事業を完成せしむべき權力の缺除が窺はれはしまいか。

大事業を起す基礎たる可き權力は主として富力である。従つて處分し得べき富力の大小と其の權限の大小とが問題になる。個人の富力を以つて行ひ得る限りに於いては問題は無い。故に往昔の靈俗兩界の勢力者は己の好む所をやつてのけた其處に大事業も出來た。しかし今日に於いては、こゝに民衆の牽制がある。經濟力に就いて云へば議會の豫算なるものがある。これは一個人のものでない丈に、最も取り扱ひ難くい財源である。之れによつて、其の思想卓抜技術優秀な技術者も或ひは己を用ふる人無きの不遇を託たねばならぬ。今日、國民的又は其の他の公共的大事業の興り難き又宜なりと云ふべきである。

二

英國は自由の國と云はれてゐる。英國市政は其の運用の妙を得てゐる點に誇りを持つ。元來市

會當面の權力者であり、之れは市民の選舉する所のものなるに拘らず實踐の行政は、委員會制を以つて行はれ、各部委員會は各々専門家を任用して其の仕事を處理せしめて行く。其處に何等障礙の起らない事を以つて誇りとしてゐる。蓋し委員會惹いては市會は、専門家の意見を充分尊重して、之れを認容して行くからである。此の制度は英國市政の長所ではあるが、直ちに他國にそのまま應用し難きものがある。蓋し英國國民の政治的社會的訓練が此の制度に運用の妙を發揮せしめてゐるのであるからして其の基礎的條件の無い所に之れを適用する事の不可なるは言を俟たない。

此の英國の範例に於いて吾々は専門家と民衆の相互信頼による融合と其の効果とを見る事が出来る。民主的なるものゝ眞髓は、従つて他をして爲さしむるの明に在り、他の行ふ所を寛容するに在る。専門家たる者の本領は、自己の専門に於ける萬全の知識と其の職分遂行に就いての責任感とに在る。政治の要諦も實はこゝに存するものと思はれる。政治家が民衆を指導するとは、此の關係に於いて民衆の開明を期待する事に外ならない。

反之、兩者の關係が乗離せる時、一方に於いては所謂衆愚政治が行はれ、他方に於いては獨裁政治が行はれる。吾々は獨裁主義の徳を説かれる事屢々である。勿論仁者賢人の施政は正しく且つ最も善きものであらう。此の意味に於いては獨裁も亦可なり。否、かくあるならば勿論獨裁でなければなるまい。従つて獨裁とは當然、最適者の獨裁を意味する。最適者とは即ち、専門家である。エキスパートである。故に獨裁とは、専門家のそれであつて又それ以外であつてはならぬ。ナチス獨逸に

於いて行政諸部門に「指導者制」の設置を見るものゝ如くであるが、かゝる場合此の「指導者」たるや、本質的には少くとも其の部門の専門家たるべきものである。此の専門家政治を或る協同主義者はエキスパートのアリストクラシーと呼んで之れを歓迎してゐる。(こゝに云ふ政治とは勿論「管理」の意味で嚴密な意味の「政治」ではないが)

故に「獨裁」として響くには二つの事情によるものと云つていい。即ち第一には、民衆が無知であつて、専門家政治の眞義に通ぜぬ場合、第二には、所謂「獨裁者」が眞個の「専門家」たらざる場合である。そのいづれの場合を問はず、共に「獨裁」なる事實が強調され、支配せらるゝもの、管理せらるゝものに「獨裁」の所感を強くする。施政者は「獨裁」力の強化を欲する。此の意味に於ける「獨裁」はいづれも採る可からざるものなるは云ふまでもない。即ち「獨裁」は不可である。

三

「獨裁」が不可なる所以は、「獨裁」は二つの事情から生じ、その一としては、似而非専門家の政治を意味し、その二としては、民衆の蒙昧を意味するからである。暫く議論を技術家の立場に移さう。

専門技術家として、最も遺憾に耐えないものは、自己の所見立案に對する、他の不識無知より生ずる妨害であらう。嘗てある都市計畫技術家は、彼等の計畫遂行上に於ける二つの障碍を指摘した。即ち第一には自然的障碍、第二には人爲的障碍之れである。此のうち自然的障碍たるや、其の性質は比

較的簡單である。勿論之れを除去する事容易とは云はぬが、可につけ、不可につけ、障碍の性質としては單純である。反之、人爲的障碍たるや、頗る厄介なものである。之れ、或ひは稱して政治的障碍とも云ふ事が出来る。今少しく此の方面について論じて見よう。

試みに、一本の道路を開設しようとする。恐らく立案設計の諸氏は色々の障碍に蓬着せられるであらう。一本の道と雖も、唯漠然漫然と造るのではない。一定の目的があり、一定の系統がある。其の内に定められた一本の道なのである。又、其の布敷せらるゝ場所たるや、必ずしも無人の天然境ではない。其の地に人間的關心が全然無いと思はれる様な道は、餘程特殊の場合を除く外は皆無と云つて差支ないであらう。甲地點より乙地點に到る若干の延長に於いて、恐らく何處かで人間的關心に關連を持つに至るであらう。此の關心が道路設計に當つて働きかける。あるものは反撥的に、或者は吸所的に。鐵道線が黨利黨略の爲めに歪められたと云はれるのは當然である。一本の道路の開設に當つて一軒の家が邪魔をしたり、或ひはその方向が若干の偏向を見せたりする事がある。問題は、かゝる場合に於ける技術者の立場である。即ち技術者の獨立性の有無が題となつて來る事である。

元來技術者は傭はれ人である。其の限りに於いて、主人の命令のまゝに仕事すべきであらう。従つて如何に材料が不足でも、設備が不充分でも、目的が歪められてゐても、主人の命とあらば唯々黙々之れに従ふべきであらう。換言すれば、技術家は與へられたる範圍内に於いて、自己の最善を盡すの

が其の使命だと云へる。此の建前をとると、道路が妙に歪んでも、鐵道線路が迂廻してゐても、技術家としては、かゝる指令が下つており、それを尊重したと云ふならば、又何をか云はんやと云ふワケである。

だが、技術家は之れで終始するものであらうか、果して、それで差支ないものであらうか。之れを反省すると、技術の獨立性と云ふ事が問題になつて来る。即ち技術家は其の技術上の建前から、此の道路はかくあらねばならぬ、此の線路はかう引くべきだと云ふ主張を持つてあらう。彼は恐らくそれを敢然と主張するに違ひない。自信あり技能ある技術家に限つて、益々強く自己の理想を主張するに違ひない。此の場合、如上の人爲的障壁に當面した時、問題が聊か厄介となつて来る。技術の獨立性が他の關心の爲めに侵害されはしないか。

既に學問の自由が侵害されたと云つて、學界に動搖を起した例は少くはない。幸ひ、此處に取扱つてゐる場合に於いては、問題は社會科學の領域に於けるイデオロギー的なものでなく、單なる技術の問題である。道路を造つたり、線路を引いたり、地帯制限を設けたり、或ひは軍艦や飛行機を造つたりする、自然科學領域なのである。しかし是等の場合に於いても、今述べた様に、領域の侵害が問題となつて来るのである。即ち技術家は、己が最善至眞と思惟する所のものゝ設計遂行に當つて、外部よりの故障に蓬着すれば、少くとも若干の不快を感じざるを得ない。此の外部よりの故障が相當考慮すべきものなる時は、まだ問題は簡單である。如何に技術家が其の學問知識の獨立を主張するにせよ、

實際の情勢や素材に即せざる設計計畫は、之れを行ふを得ない。若しかゝる技術家がありとすれば、それは外部から故障が出て仕方がない。しかし、外部からの故障が頗る低級な不眞面目な或ひは我儘な關心によるものが少なくない。かゝる場合、技術家は當然之れに反抗すべきであらう。此の場合、彼は、己の學問技術の獨立の爲め、その障礙を打破する爲めに果して強力な權力を欲しないであらうか。都市計畫關係者は、常にかゝる希望を懐いてゐる様に思はれる。實際、愚にもつかぬ、純然たる私人的な偶々有力者だと云ふ位の事實によつて障礙が起り、自己の心血を注いでの計畫を空うせざるを得ない場合の技術家の立場は想像以上の苦惱と憤激とに充ちてゐるであらう。

四

社會生活が擴大し、複雑化すると共に、凡べての管理行政も單純には納まらなくなつて來た。自由主義と云ひ、統制經濟と云ひ、いづれにしても關係者が單純、放心してゐる事を許さぬ。資本主義發展に伴つた一現象は専門技術家、エキスパートと云ふ一大社會群を發生せしめた事だと云はれてゐる。一方、國家活動は經濟的自由主義の要望あるにも拘らず益々其の領域を廣めつゝある。その活動に參する官公吏の一群、いづれも何等かの意味に於いて技術家である。今日の國家社會の生活は高度の複雑性を極めた結果、是等の専門技術を俟たねば一同も安堵し得ない状態となつた。故に此の技術家群の知識技能の利用如何は、一國生活の福祉を決定するものだ、と云つて差支ない。

他方、民衆の社會的知識、教養も向上し來てゐる。従つて、民衆も從來の様に黙従しない、一應檢討し批判する。又生活機能、領域が極度に細分された結果、一權威者の權威領域は決して廣くはない。即ち彼の努力は極めて特殊的なその領域のみに限られる。爲めに、此の領域に於ける素人は、往々にして他の領域の權威者であつたりする。此の場合後者が、自己専門以外の問題として、前者に快く黙従することは保證出來ない。昔の様に綜合的知識を以つて權威を誇る事が出來た時勢には、兎に角、今日の様に權威者が狭い領域に於いて各々對立してゐると、問題は簡單でなくなる。兎に角、所謂世間がウルサイ。之れでは仕事はやり難くいワケである。

頃日の事件に前後して二三の官省や市などに於いて所謂中堅官公吏が結束して、行政管理の徹底化を高唱した旨が報道された。是等は恐らく當然な要求かも知れぬ。技術家として複雑な國民生活合理化し、厚生せしめるに就いては當然の主張であらう。しかし、反面、世間には未だ諸般の計畫や統制に對して強固な反對が流れてゐるのを忘れてはならぬ。此の反對者によつてこゝに所謂新官僚なる名稱が贈られた。新官僚なる名稱は良いのか悪いのか、唯、從來の用語法より推せば批判的意味を含めてゐる。又新官僚がどの邊までの地位を含めるかも判然としなない。しかし各官廳の中堅技術家は其の陣營の英士であると思つて差支あるまい。

兎に角、技術家、専門家が口をきく様になつて來たのは、當然の情勢である。所謂政治家の無内容は、大言壯言では納り難くなつて來たのである。政見發表の演說會が憂世慨國、慷慨悲憤、文けでは聽衆

を呼び得ないとされてゐる。其處にもつと具體的なもの、實際的なもの、或ひは判りやすくされた専門的なものが要求されてゐる。此の大衆の要望と技術家、専門家の措置とが巧く合すれば、茲に立派な生活が出来よう、管理としての立派な政治が行はれる可能性がある。

エキスパートの支配!! 支配と言つて差支があれば管理!! 之れは次の時代相を語るものではない。唯、之れが「獨裁」として現はれるか、或ひは前に述べた美國風の形式で現れるか、それが問題である。若し、民衆と技術家とが乖離してゐる時には、それは「獨裁」の色調を濃厚にする。そして其の名に於いて非難され攻撃される。反對に民衆との協調に成功すれば、エキスパートは充分手腕を振ひ乍ら大衆に何等重壓を感じしめずして、大いに感謝され、協力されて行く事が出来る。このいづれになるか、こゝに現代政治の要諦がひそむ。現代政治家の眞の任務は此の技術家、専門家と大衆との協調を計るところにかゝる。しかし、いづれにもせよ、専門技術家は充分に強力たらしめらるゝ必要がある。それでなければ充分なる生活設計は出来ないから。(昭和十一年四月五日稿)

表題の「道路——技術と政治の内、道路」については何事も語る暇がなかつた。しかし、此の問題は「道路」とか「都市計畫」とかを考へつゝある間に生じたものであるから、假りに此の表題をそのまゝ生じておいた。こゝに述べた問題が「道路」に關して發生する事實は讀者諸賢のむしろ自から熟知の事柄であらうと思ふ。